

防衛医大教授 最高裁で逆転無罪

前科・前歴とは犯行形態が違
うのではないかと?

軽度の知的障害で、女性に抱きついた事件です。「なにすんの!」と反撃されるとすぐ逃げた犯行というものです。
口をふさいで暗がりへ引き込み、わいせつ行為を行うという執拗さはまったくありません。明らかに他人の犯行です。

暗い夜道で被害者はよく顔を鮮
明に覚えているのですね。

被害直後の証言記録は詳細ではありません。後日、犯人があがったと言われて警察で見せられた面割台帳でインプリントされたと思われれます。
指摘した写真も昔のもので、二週間前に兄の結婚式のとき髪を切って短くなっているのに証言は矛盾しています。
白いマフラーなど持っていない。

身長が大きく違いますね。

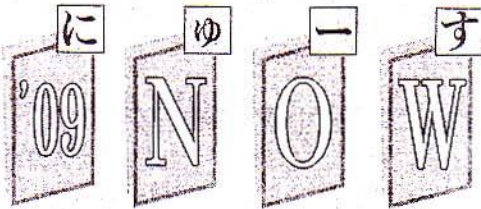
弁護団が暗がりの条件のもとで、すれ違って声をかけられ、待ち伏せされて襲われたとの証言をもとに、実験を行いました。
顔の特徴を覚えていない人はなく、ましてや鼻や目にいたってはほとんど記憶していません。ただ一つ、共通して一致するのが身長です。犯人は彼と同じくらいの180cmとの証言がなぜ168cmの源太さんに該当するのでしょうか。
写真では身長が分らなかったのでしょうか。

痴漢裁判に新局面

電車内で女子高生に痴漢行為をしたとして強制わいせつ罪に問われ、無罪を主張していた防衛医科大学校教授の上告審で、最高裁第三小法廷は四月十四日、教授を懲役一年十月の実刑とした二、三審判決を破棄し、逆転無罪判決を言い渡した。最高裁が痴漢をめぐる強制わいせつ事件で逆転無罪判決を言い渡したのは初めて。香芝市内の路上で、帰宅途中の女性の背後から抱きついたとされる大和高田市の無職男性(27)の強制わいせつ事件の上告審にも影響を与えそうだ。
(司法担当・谷村隆城)

▽香芝市強制わいせつ事件 捜査員に伝えたとき、一審の奈良地裁は、男性を任意同行するに至った。物証や被害者以外の目撃情報などは皆無だったが、同一渡され、二審の控訴審も棄却された。男性は今年二月に最高裁へ上告した。

女性に「写真の男が犯人に間違いない」との証言が決め手とな
冤罪(えんざい)事



件や警察などによる人権侵害・政治弾圧事件の被害者を救済、支援する活動を行っている日本国民救済会。名張毒ぶどう酒事件や大阪東住吉事件などの支援活動を全国で展開している。会は昨年、香芝の強制わいせつ事件を支援することを決定。「男性を守る会」を発足させ、公判では毎回、傍聴席が支援者で満席

求められる慎重な判断

二月五日に開かれた大阪高裁での二審判決公判でも傍聴席は満席。裁判長が、弁護側の請求を次々と棄却するたびに傍聴人からは、落胆とため息に包まれた。直後、大阪弁護士会館では日本国民救済会などが中心となり、最高裁でも無罪を訴えることを確認した。
▽疑わしきは被告の利益に
最高裁での判決を前にならで信用性に疑いがある」と指摘している。「疑わしきは被告人の利益に」(刑事裁判の原則)。香芝の強制わいせつ事件の上告審で男性の無罪を訴えるに注目が集まる。

香芝事件の上告審注目